



学校法人志賀学園
久之浜こども園
令和5年6月30日

朝顔が朝の光を浴び、高く伸びた蔓にたくさんの花を咲かせています。園庭に出来た水たまりに長靴で入り嬉しそうな子ども達。そのような中、日に日に暑くなり、梅雨の晴れ間には、砂場で泥あそび、シャボン玉、泡あそび、色水遊びなど戸外遊びを楽しむ子ども達の元気な姿が、あちらこちらで見られます。

園庭のプランターには、子ども達が植えたトマトやゴーヤ、二十日大根。園舎裏の畑には、じゃが芋やカボチャ、スイカなど夏野菜が育ってきていて、子ども達は、収穫を楽しみにしています。梅雨が明けると本格的な夏がやってきます。暑さに負けないよう、お肉や野菜など栄養をたっぷりにとって元気に過ごしましょう。

さて、もうすぐ七夕です。保護者の皆様は七夕物語のあらすじを知っていますか。なんとなく知っているけれど、子どもに詳しく説明する自信がないという方もいるでしょう。七夕物語のあらすじについて簡単におさらいしてみましょう。

天の川のほとりに機織りが上手な美しい織姫と働き者の彦星という牛飼いが住んでいました。2人は結婚しましたが、遊ぶことに夢中になり結婚してから仕事をしなくなってしまいました。織姫が仕事をしないせいで神様たちの着物はボロボロになり、彦星が仕事をしないせいで牛たちは病気になってしまいました。怒った天の神さまは2人を天の川を挟み空の彼方へ離れ離れに引き離してしまっただけです。彦星に会えなくなってしまった織姫は悲しみにくれ、毎日泣いて暮らしていました。そんな織姫をかわいそうに思った天の神様は、一年に一度、七夕の日に、織姫と彦星が会うことを許してあげました。実際に七夕の夜に東の空を見上げると、星がたくさん集まり川のようにになっている天の川を挟み、その左上の織姫の星（ベガ）、右下に彦星（アルタイル）が光っています。七夕のいわれは諸説ありますが、この2つの星が旧暦の7月7日に天の川を挟んで最も光り輝いて見えることから、七夕物語が生まれたと言われております。七夕の夜、お子様と一緒に伝説の星を探してみるのもすてきですね。

園では、これから七夕飾りを行います。短冊には「〇〇が欲しい」と欲しい物を書くのではなく、「〇〇になりたい」「ピアノが上手に弾けるようになりますように」「サッカー選手になりたい」など、技術・技能の向上を願ったり、夢や願い事を書くことを伝え笹飾りをします。各クラスの軒下に、笹飾りが飾られますので自由保育参観においでの際には是非ご覧下さい。